

# 令和五年度入試用 国語科 入試問題解説資料

## ■ 形式

- ① 試験時間は五十分で百点満点です。
- ② 全問マーク式問題で、五択が中心となります。
- ③ 各大問配点 1 評論文(二十点) 2 小説(二十点) 3 古文(二十点) 4 知識問題(二十点)

## ■ 対策

### 一 評論

**学習アドバイス** 評論文は、問題文自体が長いので、内容や構成をしっかり把握しながら素早く正確に読む力をつけましょう。そのためには、「つまり・すなわち」・「しかし」・「要するに」等の接続語や、「のだ」・「なのである」等の文末表現に注意しながら、筆者の主張をとらえることが大切です。

ふつう我々が本を選ぶ際、面白い(面白い)か否か、心の琴線に触れるか否かで良し悪しを判断することがあるだろう。こうした主観的な基準は大切で、それがないと主体的に本を読む意欲は湧いてこないはずだ。そしていったん信頼できる著者と出会った場合、その著者の他の作品を連関して読んでいくならば、あまり当たり外れはないはずである。また自分の限られた関心や問題意識で、関係する本を手当たり次第に読んでいくのが、ふつうの読書の仕方だろう。しかしこうした読書の姿勢だけだと、自分の基準からはみ出るものになかなか出会えなくなる。結局、同じ価値観の中で堂々巡りをし続けることにもなりかねない。

そこで、もう少し客観的な基準も必要になるけれども、そのとき友人の批評、新聞や雑誌の書評、受賞歴、その分野の概説書、アンソロジーといった、自分以外の識者の判断が参考になるだろう。あるいは古典全集式の、過去の長い年月にわたって多くの人々の模範となり、愛好されてきた作品を選抜したものを読んでみるということも重要になってくる。Classicなど「古典」を表わす近代西欧語は、ラテン語のclassisに由来し、classisとは、国家の危急のとき、これを救うために富豪が提供する船団・艦隊を指したこと、そのような人のことを「艦隊的」という意味でclassicusと呼び、それを精神的な問題にも類比的に用いて、人間の精神的な危機に際して何らかの知恵・指針を与えるような著述・作品のことを、the classicsと呼ぶようになったこと、などはよく知られたことであろう。そうした意味での、豪勢な救出艦隊として選抜され残されてきた人類の知的遺産・古典を手当たり次第に読むことこそ、ホンモノと出会う確率が最も高いはずであろう。

※ アンソロジー……詩文など作品の選集。

(関根清三「本の真贋」による)

問——線部「人類の知的遺産・古典を手当たり次第に読むことこそ、ホンモノと出会う確率が最も高いはずであろう」とあるが、なぜか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選びなさい。

- ア 古典は人類が精神的な危機に陥った時に、何らかの方向性を示して人々を救ってきたという実績を伴ったものであるから。
- イ 古典は人類が歴史的な戦争の中で大きな痛手を負った時に、ある一定の指針を与えて人々を救済したという功績を持ったものだから。
- ウ 古典はある国家が危急の時に、それを救う艦隊として選抜されてきた人たちが知恵を得るために読んだものであるから。
- エ 古典は人間の精神的な危機に際して、対処すべき確実な答えを示し続けてきたというすぐれた成果を持ったものだから。
- オ 古典は過去の人間があらゆる危機に陥った時に、ひと時の間そのことを忘れさせ、落ち着きを取り戻させてきたものだから。

答 ア

### 二 小説

**学習アドバイス** 小説は、さまざまな出来事の中で変化していく登場人物の心情を読み取ることが重要です。よって、登場人物の心情の理解につながる表現(登場人物のしぐさや表情、セリフ等)に注意しながら、本文を客観的に読み進めることを心掛けてください。

### 三 古文

**学習アドバイス** 古文は、難しい部分には注釈や現代語訳がつかまします。それらを参考にしつつ文章の内容をしっかりとつかましましょう。各文の主語の把握も重要です。なお、例年出題していた歴史的仮名遣いや係り結びの問題は、**四**知識問題で出題されます。

唐に北叟ほくそうといふ翁ありけり。かしこ強き馬をなん持ちたりける。これを人にも貸し、われも使ひつつ、**A**世を渡つたよりにしけるほどに、この馬、いかがしたりけん、いづちともなく失せにけり。聞きわたる人、いかばかり **B**嘆くらんと思ひて、とぶらひければ、悔いず。「とばかり言ひて、つゆも嘆かざらん」といふ人ありけり。  
見舞うたふ

あやしと思ふほどに、この馬、同じさまなる馬をあまた具して来にけり。  
連れて

- 問一——線部A「世を渡つたより」の意味として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選びなさい。
- ア 世界を旅するための移動方法
  - イ 世の中を生きていくための生活手段
  - ウ 自慢の馬を世間に知らせる手紙
  - エ 世の中で頼ることができるとの大切な友

答 イ

問二——線部B「嘆く」の主語として正しいものを次のア～オの中から一つ選びなさい。

- ア 翁
- イ 馬
- ウ 聞きわたる人
- エ 子
- オ 兵

答 ア

問三——線部C「あやしと思ふ」とあるが、なぜか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 大事な馬を失った翁が全く嘆く様子がなかったから。
- イ 馬を失ったと聞いた人々が全く心配する様子がなかったから。
- ウ 立派な馬ばかりだったのに翁が売ってしまったから。
- エ 翁の嘆きようが人々が思ったよりもはげしかったから。

答 ア

◎近年、頻出の問題形式について

**学習アドバイス** 評論・小説・古文のいずれにおいても会話文や、他の文章の引用を用いた複数テキストの問題が出題される可能性があります。会話の文脈を読み取る練習や、複数の文章同士の関係性を見抜く練習をすることが大切です。

**問題文は省略**

問次に示すのは、二人の生徒がこの文章を読んだ後に話し合いをしている場面である。本文の内容をふまえて、空欄 X・Y に入る最も適当なものを後のア～オの中から一つずつ選びなさい。

生徒A—「そういえばこの前の芸術鑑賞会、クラシック鑑賞だったよね。あの感想文がなかなか書けないんだ。」

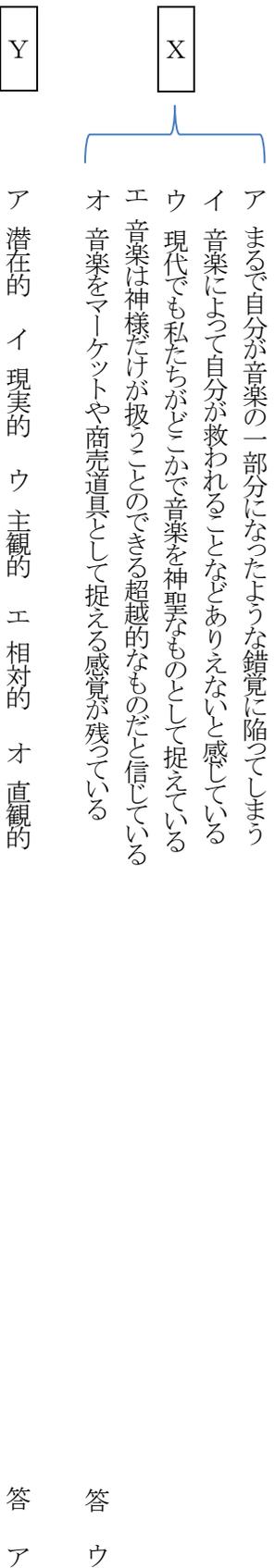
生徒B—「そもそもクラシック音楽の感想を書けって言われても、何だか言葉にすること自体、憚られちゃうよね。」

生徒C—「ちょっと待って。それってもしかして、この文章で筆者が言うところの、X っていうことなのかな。」

生徒B—「なるほど。筆者も述べているけれど、もしかしたら Y に私たちの中にも、そういう感覚が眠っているのかもしれないってことね。」

生徒A—「僕自身は百年以上も前に生きた人たちの感覚が自分の中に存在しているなんて、考えたこともないなあ。」

生徒C—「いや、可能性としては十分ありうると思うよ。そう考えると時代を超えた人間同士が繋がっているみたいで、何だかおもしろいね。」



**四 知識問題**

**学習アドバイス** 従来出題していた単語・文節に区切る問題と活用形を問う問題などは出題されません。ただし、助動詞や助詞などを中心とした口語文法の問題は継続して出題します。また、漢字、言葉の意味を問う問題なども継続します。近年新たに文学史に関する問題を一問出題しています。

問一 鎌倉時代の随筆『徒然草』の作者として正しいものを次のア～オの中から一つ選びなさい。

- ア 琵琶法師
- イ 鴨長明
- ウ 松尾芭蕉
- エ 吉田兼好
- オ 一遍上人

答 エ

問二 次の文の二線部のカタカナを漢字に改めた場合、同じ漢字を使うものを後のア～オの中から一つ選びなさい。

コウキユウの平和を望む。

- ア 問題がハキユウする。
- イ コキユウを整える。
- ウ この建物はロウキユウ化している。
- エ 対処に行き詰まりコンキユウしている。
- オ 熱に対するタイキユウ性を持った食器。

答 オ